

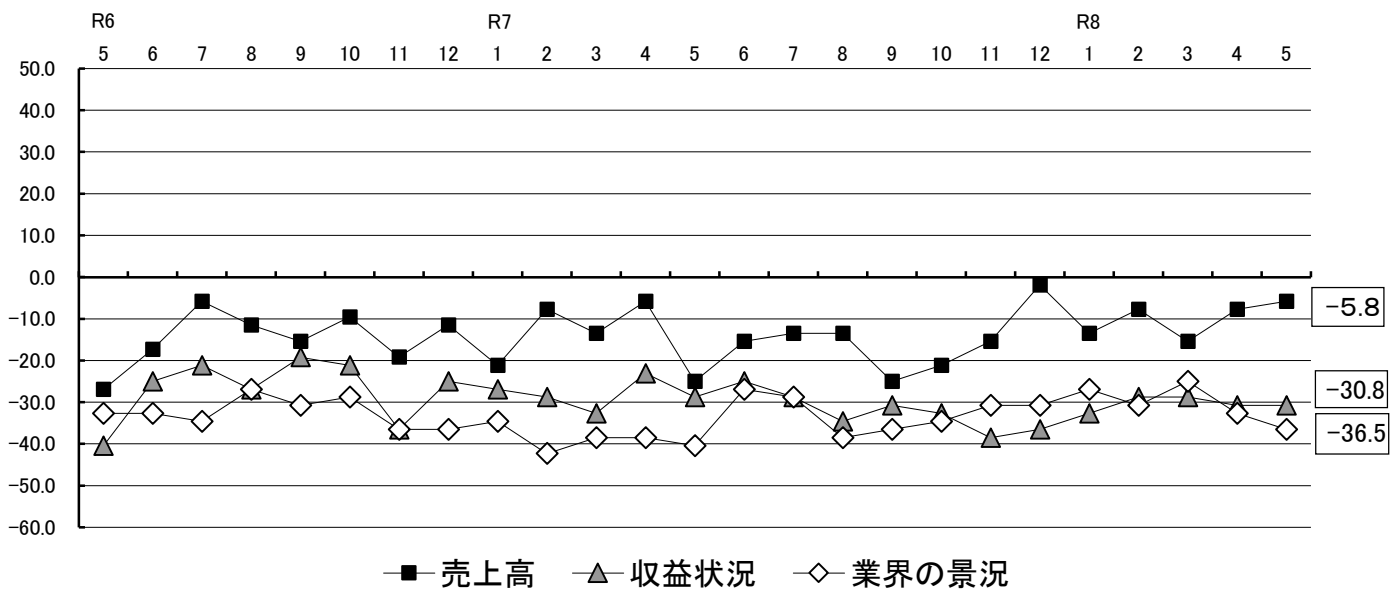
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和8年5月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員 5 2 名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 5月の前年同月比 DI 値は、前月と比べ、主要 3 指標のうち「売上高」は上昇したものの、「収益状況」は横ばいとなり、「業界の景況」は低下した。さらに、その他の 6 指標においては、「取引条件」が不変であった一方、それ以外の 5 指標はすべて上昇した。特に「在庫数量」は、前月の大幅な減少から一転して、上昇に転じた。
- 4月に続き、中東情勢や原油・諸物価の高騰の影響で、包装資材や原材料の不足・価格上昇・納期遅延が広がり、企業の収益を圧迫している。一部の分野において需要および売上の回復・増加が見られたものの、物流費、人件費上昇も重なり、全体的に厳しい経営環境が続いている。

県内主要 3 指標の推移(前年同月比 DI 値)



主要3項目	県内		全国	
	DI 値	前月比	DI 値	前月比
売上高	-5.8	1.9	-10.5	-1.1
収益状況	-30.8	0.0	-30.7	-0.5
業界の景況	-36.5	-3.8	-34.2	1.2

売上高

当月の県内売上高 DI 値は、前月より 1.9 ポイント増加し、-5.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.1 ポイント低下し、-10.5 ポイントとなった。

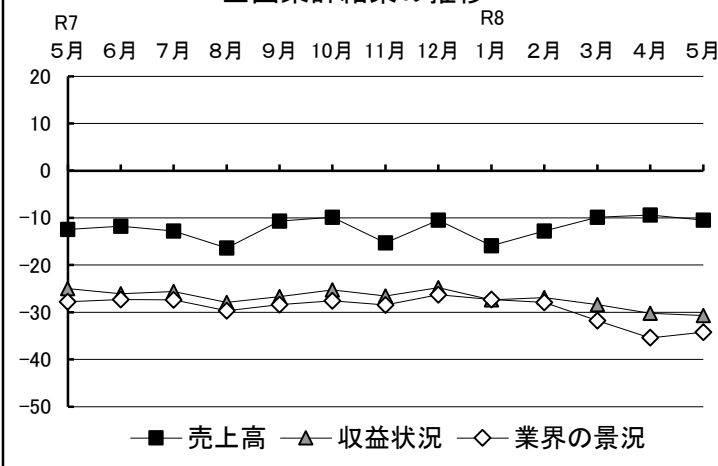
収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月と変わらず、-30.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 0.5 ポイント低下し、-30.7 ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 3.8 ポイント低下し、-36.5 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.2 ポイント上昇し、-34.2 ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

5月の前年同月比DI値は図表2のとおり前月と比べ6指標が上昇、2指標が不変、1指標が低下した。主要3指標では、「売上高」は1.9ポイントの上昇、「収益状況」は不変、「業界の景況」は3.8ポイントの低下となった。

製造業では、多くの業種において依然として厳しい状況が続いており、特に収益や景況の悪化が顕著である。「家具・建具製造業」では中東情勢の影響による材料価格の高騰や供給の目詰まりにより売上減少・設備操業の低下が一部に見られ、収益や景況の悪化につながっている。「金属製品製造業」では原油や鋼材、銅・真鍮などの仕入価格の上昇により、経営環境が厳しさを増している。

非製造業では、物価及び燃料費の高騰や資材の供給不足による影響を指摘する声が多く寄せられている。「その他小売業（燃料小売）」では、原材料の供給不安定化や物流の停滞、メーカーの生産調整などを背景に、設備部材の納期長期化が続いている。設備更新や修繕の遅れは保安業務や顧客対応への影響が懸念されるため、今後の動向を注視する必要がある。「貨物自動車運送業」では、燃料価格の高騰が続く中、輸送量の減少も重なり、収益は低い水準で推移している。さらに、車両部品や油脂類の値上り等もあり、小規模事業者においては、その影響が特に大きく、依然として厳しい状況が続いている。

当月も、原材料や原油などの調達難や価格高騰に加え、人件費の上昇や深刻な人手不足が経営を圧迫し、先行きを不安視する声が多く聞かれた。また、仕入コストなどの上昇分を十分に価格転嫁できない状況が続いており、収益環境は一段と厳しさを増し、先行きは依然として不透明である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-50.0	25.0	25.0	-25.0	-50.0	-50.0	25.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	25.0	0.0	25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0
木材・木製品	-75.0	0.0	0.0	-25.0	-75.0	0.0	-25.0	25.0	-75.0
印刷	0.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	0.0	-25.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	-25.0	-50.0	25.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
一般機器	-25.0	50.0	75.0	-50.0	-25.0	25.0	25.0	0.0	-25.0
製造業	-24.0	0.0	32.0	-28.0	-44.0	-16.0	-4.0	-4.0	-52.0
卸売業	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
小売業	14.3	14.3	0.0	-42.9	-57.1	-57.1		-28.6	-57.1
サービス業	50.0		66.7	33.3	33.3	16.7		16.7	33.3
建設業	-40.0		20.0	-60.0	-60.0	-20.0		-40.0	-40.0
運輸業	0.0		0.0	-25.0	0.0	-50.0		-25.0	-50.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	11.1	10.0	25.9	-18.5	-18.5	-22.2		-14.8	-22.2
全体	-5.8	2.9	28.8	-23.1	-30.8	-19.2	-4.0	-9.6	-36.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年 1月	2月	3月	4月	5月	前月比
売上高	-25.0	-15.4	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-1.9	-13.5	-7.7	-15.4	-7.7	-5.8	1.9
在庫数量	-11.4	0.0	-2.9	-5.7	-8.6	-5.7	2.9	2.9	-2.9	-2.9	14.3	-11.4	2.9	14.3
販売価格	30.8	25.0	28.8	19.2	25.0	23.1	26.9	26.9	28.8	23.1	25.0	21.2	28.8	7.6
取引条件	-21.2	-23.1	-17.3	-25.0	-21.2	-21.2	-19.2	-19.2	-17.3	-19.2	-17.3	-23.1	-23.1	0.0
収益状況	-28.8	-25.0	-28.8	-34.6	-30.8	-32.7	-38.5	-38.5	-32.7	-28.8	-28.8	-30.8	-30.8	0.0
資金繰り	-21.2	-13.5	-13.5	-19.2	-19.2	-23.1	-26.9	-26.9	-17.3	-17.3	-15.4	-21.2	-19.2	2.0
設備操業度	-24.0	-12.0	-20.0	-16.0	-24.0	-24.0	-8.0	-8.0	4.0	-4.0	-4.0	-8.0	-4.0	4.0
雇用人員	-5.8	-7.7	-5.8	-9.6	-13.5	-11.5	-9.6	-9.6	-7.7	0.0	-1.9	-11.5	-9.6	1.9
業界の景況	-40.4	-26.9	-28.8	-38.5	-36.5	-34.6	-30.8	-30.8	-26.9	-30.8	-25.0	-32.7	-36.5	-3.8

特記事項

情報連絡員報告（令和8年5月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	先月同様、特に包材関係の欠品や値上げが激しく、対応に苦慮している店が多い。安定的な供給を望む。
	めん類製造業	得意先の飲食店などの店舗では後継者難や人手不足を、営業時間の短縮や休業日の増加で凌いでいるとの報告があった。また、先行きの売上の維持にも心配な状況である。 同時に中東情勢の影響で原油由来の包装資材類の供給が不安定化し、その調達への心配が多い。そのため、関連資材類の仕入れ在庫を多めに調達している。関連して、販売価格については、大手食品会社のように我々中小では、簡単に値上げはやり難いと考えている。 仲間内では、社員さんの求人活動で応募者がなく、退職社員の補充に苦慮している。
繊維工業	染色整理業	原材料・諸物価高騰に伴い、収益が圧迫している。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	製品包装用のPP袋を発注したところ、前回発注時（約1年前）に比べ、単価は2倍、納期は3.5倍の提示を受けた。不安定な中東情勢の影響が理由とのことで、急激な物価や物流の変化に対応できない事業所は厳しい活動を強いられると実感している。
木材・木製品	一般製材業	戸建住宅、特に地場工務店案件が弱い印象を受ける。プレカット工場は、当用買い傾向が継続している。一方で、分譲ビルダー、集合住宅・非住宅案件は比較的底堅い状況である。
	家具・建具製造業	前回と同様、中東情勢の緊迫化による材料価格の高騰・目詰まりにより、売上減少・設備操業の低下が一部に見られ、収益・景況の悪化が強まっている。
	木材・木製品製造業	梱包向け、木材の出荷は順調に推移している。夏に向けて仕入値がじわじわ値上りしてきている。住宅向け資材の出荷量は大幅減になってきている。そもそも新築着工が減っていること、建材類の一部製品で値上りや受注制限がかかっていることで市場が混乱し、現場が動いていないことが主な要因となっていると思われる。先が見通せない。
印刷	印刷業	連休明けの閑散期だが民需、官需ともに前年より減少している。用紙・資材が高騰しており価格転嫁しているが、今後中東の戦争の影響で更に値上り品薄が懸念される。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、前年と比較して増加した。建材関係は、前年と比較して同等であった。肥料関係も、前年と比較して同等であった。全体としては、前年と比較して増加した。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	原油関連、ナフサ不足など影響が拡大している。自動車メーカー各社、新規EV車の開発中止や見直しの発表に戸惑うサプライチェーンは、新規受注も失注など深刻な状況である。鋼材価格は毎月の値上げ要請だが、荷動きも激減している。物価高騰に金利の上昇と厳しさが増すばかりである。
	金属製品製造業	銅や真鍮など材料値上りの為、製品も値上げせざるを得ない。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、原油価格上昇による収益の悪化、人材不足等である。

一般機器	一般機械器具製造業	ホルムズ海峡封鎖の影響で、切削油の入手が困難となっているという話を聞く。今後様々な悪影響が出てくると思われる。
	一般機械器具製造業	ここ数カ月増加していた売上は減少したとの回答が多かった。引き続き仕入単価も上昇しているため、業界の景況は悪化したとの回答が半数を超えた。今年の猛暑に関する項目では、現場作業員の熱中症リスクや電気代などのコスト負担を課題に挙げる回答が多い。暑さ対策として、スポットクーラーや空調設備の導入、作業服・冷却グッズの改善などを強化したいとの回答が多い。暑さ対策に関しての支援策は、補助金の拡充や助成金を挙げており、簡単な条件で申請できるものを望む声もあった。各組合員も課題に対して、対策を講じているものの各職場環境で対応が異なる点や、工場の広さなどでかなりの投資が必要になってくる。今後も健康リスクの増大や就労環境悪化が懸念されるため、経営の新たな脅威になってくると思われる。
	一般機械器具製造業	EVの流れがここで一時停止状態になりHVで少々つなげるようで助かっている。但しいつまでもつかという問題もある。下請け企業は自力勝負ができないため流れに乗ってやっていくしかない。
卸売業	各種商品卸売業	当団地組合では、売上高・販売価格は増加とする企業が若干多かった。業況等も好転とする企業が若干多かった。中東情勢悪化に伴う原油価格高騰により団地内企業においても多少影響が出始めている。特に、塗料等（シンナー・溶剤）の入手が難しくなり入手先の変更等余儀なくされている。また、建築資材にもメーカーの出荷制限がかかるなど影響が出始めている。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。イラン情勢の悪化により、燃料価格の上昇や石油を原料とする製品の不足が生じ、物価高にも拍車がかかり、仕入コストが上昇したため、厳しい状態になっている。従業員の人員確保が難しい。（募集をかけても集まりにくい。）賃金アップについても対応していく中で、原資の確保の他、労働時間問題についても検討していかなければならないため、課題も多い。
小売業	食肉小売業	5月の連休は、費用効果を考え近場の旅行計画をたて、節約志向であった。全体的に昨年同様であった。
	その他の小売業	需要面については、前年同月と比較して大きな落ち込みは見られず、むしろ一部では増加傾向も感じられる。一方で、為替相場の高止まり、原材料価格・燃料価格の上昇、物流費や人件費の増加等により、組合員各社の収益環境は引き続き厳しい状況にある。特に、LPガス販売事業においては、仕入価格や関連コストの上昇分を販売価格へ十分に転嫁しきれないケースもあり、利益率の低下が課題となっている、このため、各社においては、事業継続と保安水準の維持を図る観点から、料金改定・値上げを検討せざるを得ない状況となっている。また、供給設備や消費設備に係る部材についても、以前と比較して納期が長期化している実感がある。背景には、製造に必要な原材料の供給不安定化、物流の停滞、メーカー側の生産調整等があるものと推察される。設備更新や修繕対応に遅れが生じた場合、保安業務や顧客対応にも影響が及ぶ可能性があるため、今後の動向を注視している。
	各種商品小売業	5月は新店舗効果の継続もあり、館内の集客・売上ともに概ね堅調に推移した。部門別に見ても、アパレルを含めほぼ全ての部門で前年実績を上回る結果となり、館全体としては前年超えを確保し、売上の伸長を強く実感できるものと考えられる。ただし、前年が低調であった反動もあるものの、各部門で前年を上回る結果が継続していることから、売上の下げ止まりや消費動向の持ち直しの兆しも見られる。今後は新店舗による集客効果を維持しながら、既存テナントの売上向上につながる政策を継続し、館全体の活性化を図っていきたい。
	花・植木小売業	母の日の花材の単価は高値。社会情勢の影響でカーネーション等の輸入品の入荷が激減。国産品の取合い。資材についても価格上昇。苦しい繁忙期であった。
サービス業	理容業	組合員の業況については、物価高騰の影響を受けている店舗が少なくない。顧客の来店頻度も間隔が長くなる方が見受けられる。光熱費、資材等の高値が相次ぎ、先行きを不安に感じる。特に、高齢組合員にとっては苦しい業況である。

	旅館・ホテル	5月の宿泊は4月と比べると高稼働で推移した。GWとスポーツコンベンションの影響である。（宴会）原材料高と物価高と中東の問題がホテルでの宴会に良くない影響を与えている。5月も利用状況が予測ほどではなかった。（飲食店）物価高による利用控えの影響が飲食店には出ているように感じる。原材料の高騰が非常に影響が大きい。
	廃棄物処理業	昨今の中東情勢に伴い、現在入手困難なものや不足が見込まれるもの等のアンケート調査を当組合員に行った。その結果、サクシオンホース（バキュームホース）が今後供給不足と価格高騰の可能性がある。また、アドブルーの購入にあたり容器の供給不足が既に発生している。一部事業所では、検査採取容器・フラン瓶・プラ瓶等が価格高騰・入荷納期遅延が発生している。
建設業	一般土木建築工事業	中東情勢悪化の具体的影響が出ており、特にナフサ由来の断熱材など建築資材の入手困難、遅延として表れている。
	管工事業	ホルムズ海峡封鎖問題により、原油由来のプラスチック系材料の入荷が激減しており、業務に支障が出ている。またその影響による製品の値上げが相次いでおり、工事の設計・施工に困難が生じている。
	内装工事業	中東紛争の影響を受け、内装資材関係の中でも特に床・壁紙用接着剤不足が顕著である。また、各メーカーより資材費値上げの通知があり収益面を圧迫している。
運輸業	貨物自動車運送業	燃料価格高騰が続く中、燃料調達への不安やオイル油脂類の品薄が騒がれている。輸送量の減少もあり収益が少ない、車両を維持するうえで部品の値上がり油脂類の値上り等もあり、地域内小規模事業者では影響が特にあり依然として厳しい状況が継続している。運送原価が上昇している現状では、荷主企業との価格交渉が今後の課題となるが企業側も原材料価格の高騰もあり運賃価格増は厳しい状況である。
	貨物軽自動車運送業	例年であればゴールデンウィークの影響を受け、稼働日数が減り売り上げにも影響を及ぼす月であるが、本年に関しては、野菜・果物等のスーパーへの緊急配送、母の日のカーネーションの配送、先月から引続き、断熱材や、シンナー、塗料の配送で、車が足らずに配車ができない日が数日あった。県内全域で組合員のお客様の動きをみると、建築資材、自動車関連の動きが激減している。中東情勢や、自動車業界の再編等の影響が県内でも深刻化している。影響を受けない業界は無いと言っていいほどのダメージである。とは言え宅配等の仕事は連日、休みなく荷物があるようである。組合員の売上げ、生計を立てられるよう、引続き尽力する次第。
	一般乗用旅客自動車運送業	GWは5月に入ってから1日～6日までまあまあ好調な動きであった。GW過ぎの平日は例年そうであるように動き（人手）が悪い。近年は5月といえども気温が高く、その分飲食店などは好調に感じる。タクシーに直接影響のあるガソリンの高騰や諸物価の値上がりがじわじわと各所に波及してきた。アプリ配車（TAXIGO）は好調と思われる。迎車料金について気にする様子もなく便利さ優先がお客様の利用につながっている。
その他の非製造業	大谷石採取業	採石業者、加工業者とも、需要が高い石の生産・流通量が5月中旬一時的に回復したが、下旬には少ない状況に戻っており、前年と変わらない状況である。